

日本電鍍工業株式会社

電解ジーンコート法は、電気の処理でアルミに亜鉛の緻密な層を貼るという処理。薬剤の工夫と電気処理という、従来の方法に別のものを転用したことで、新しい技術が実現した。

めっきでワンランクアップの ものづくりをしませんか？

大学卒業後は大手電機メーカーに就職しましたが、いつかは自分で商売をやりたいと思っていました。父もめっき会社を営んでいましたが、私は伯父が創業した現在の会社を継ぐことに。伯父は根っからの職人気質で、「めっきは、きっちりせなあかん」と技術に関しては徹底していました。そのこだわりの、同業のめっき会社からの「日本電鍍工業なら、できるんちゃうか」という信頼につながり、お客様からの紹介によって事業を成長させることができました。

これまで、どんな依頼にもできるだけ断らず仕事を受けてきました。その中で、これまでのやり方では難しいと思われるオーダーも多く、技術の向上はもちろん、新しい工法を生みだしました。ただ、技術や工法の高さが当社の魅力ではありません。我々は、めっきという表面処理を通じて、お客様にサービスを提供しているんです。お客様が抱えるニーズや課題にまっすぐ向き合い、当社の持つ技術や工法、そして人の力で形にする、というサービス業でありたいと思っています。

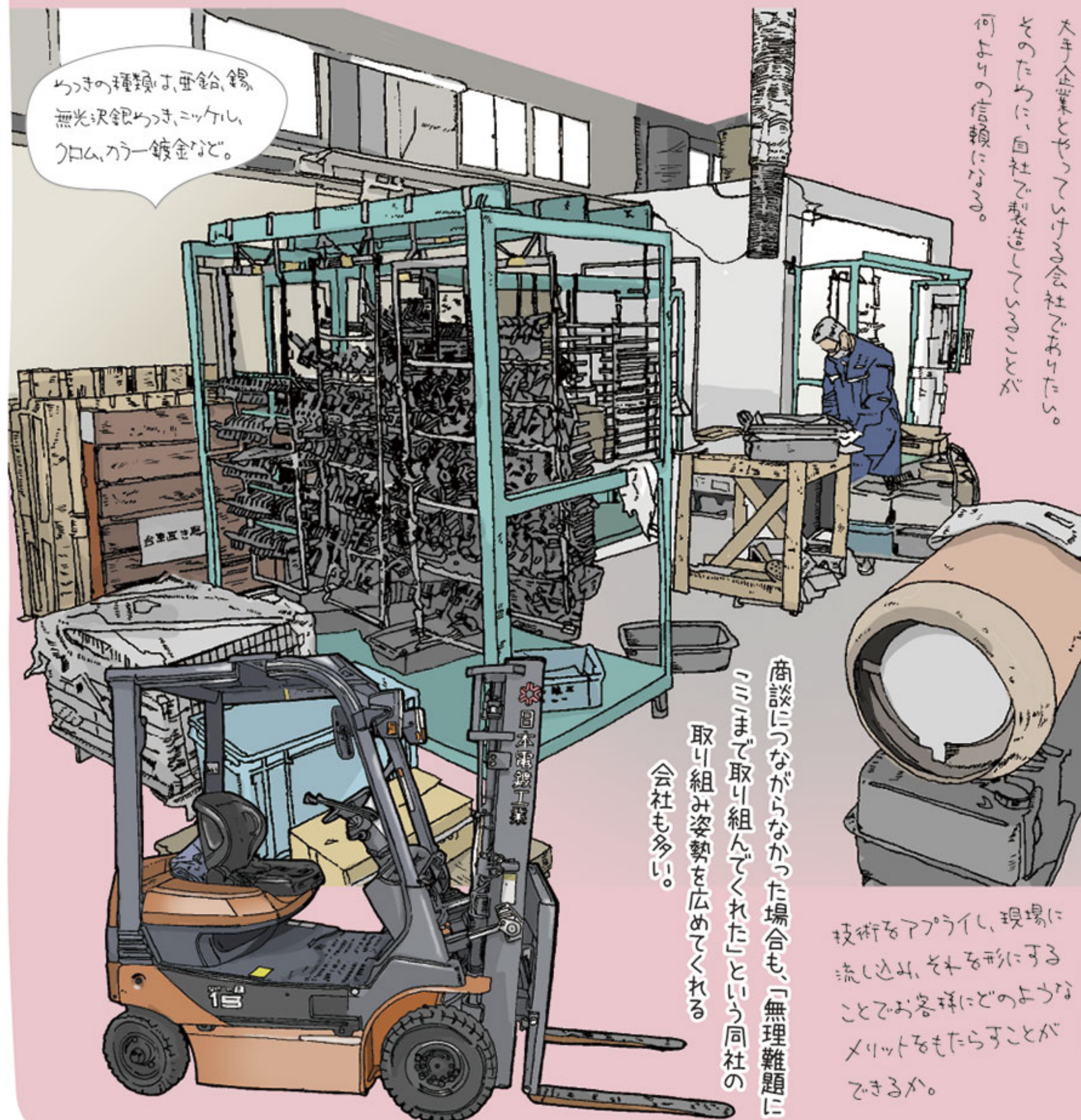
代表取締役社長
寺内亮一さん

大手企業とやっていける会社でありたい。そのために、自社で製造しているものが、何より信頼になる。

商談につながらなかった場合も、「無理難題に」
「今まで取り組んでくれた」という同社の
取り組み姿勢を広めてくれる
会社も多い。

技術をアプライし、現場に
流し込み、それを形にする
ことでお客様にどのような
メリットをもたらすことが
できるか。

めっきの種類は、亜鉛、銅、
無光沢銀めっき、ニッケル、
クロム、カラー鍍金など。



お客様の要望に NO と言わず めっきの可能性を広げる

日本電鍍工業は、1967年（昭和42年）の創業時から一貫して、めっきを専門に行ってきた。めっきは漢字で「鍍金」とも書くが、金属などの表面に金属の皮膜を作る技術で、装飾したり錆びないようにしたり電気を通るようにしたり、用途に応じて利用される。

同社の特徴は、単にクライアントの指示に従って、安く早く、めっきを仕上げるのではなく、独自技術で新たな機能を付加する「機能性めっき」に強みを持っているという点だ。たとえば、インフラ設備に使用される部品で、通電性、つまり電気を通す性質が求められる場合、従来なら電気を通しにくくなるアルミは使用せず、電気を通す銅を使用する。しかし、軽量かつコスト面でもメリットのあるアルミを使用したいと求められた場合、通電性を付加するめっき技術を開発。従来の考え方では無理だろう、という要望も、決して NO!と言わず、それを可能にする方法を考え、実現してきた。

日本電鍍工業がめざすのは、「めっき屋から信用されるめっき屋」だと寺内社長は言う。「お客様に言われるとおりに段取りするだけでは、ダメなんです。お客様の求める機能をめっきで実現するにはどうすればいいか。そのような対応力をあげるために、当社では技術と知識の追求を常に励んでいます」。顧客開拓は営業ではなく、主に展示会で技術力と対応力をアピール。「日本電鍍工業に相談してみたら、と言われた」と同業他社からの紹介や評判を聞きつけて依頼される顧客も多い。ライバル会社が紹介してくれるのは、難易度の高い作業工程や今までにないめっき工法は、日本電鍍工業でしかできないという他社の評価の表れと言える。

めっき業界に多いのは下請けとしての“めっき屋”で、要望されたことにいかに答えるかが最優先。一方、同社はそれを飛び超えて、お客様の考えや要望を理解し、技術とアイデアで解決することを考える。下町の工場ならではのチャレンジングスピリッツにあふれた会社だと言える。

日本電鍍工業株式会社

<http://nihondento.co.jp/>
〒544-0004 大阪市生野区巽北1-25-8
TEL 06-6751-6194 FAX 06-6751-6238

事業内容／めっき加工業（亜鉛、銀、銅、無電解ニッケルほか）、化学研磨

一年後に飲食店の開店を希望する。めっきは、金属の表面に金属の皮膜を作る技術で、装飾したり錆びないようにしたり電気を通るようにしたり、用途に応じて利用される。

西村智志さん（38歳）

品質管理
柿本尚美さん（33歳）

家事や育児と両立しながら働きたいと、入社しました。現在は、パートで勤務し、検査・検品を担当しています。不良品がないか目で見て確認し、手で触って確かめます。工場は働くことに抵抗はありましたが、専用の検査室で作業していることも、冷暖房の完備など、働きやすい環境を整えてもらっています。

事業開発
内野知可子さん（24歳）

大学は文系の学部で、化学についてはまったく知識を持っていませんでした。自分の知らない新しいチャレンジがしたいと思ったんです。事業開発として、小ロットの特注品や試作などの製作を担当しています。主に、手作業で加工する新しい製品の製作に携わっています。現在は大きな板状のものを銅でめっきしています。常に新しい技術や金具（無電解ニッケル）と関わることもありますが、それを毎日、繰り返すことの面白さを感じています。

大学は外国語大学でしたが、就活ではものづくりに関わる仕事を希望していました。この会社を選んだのは、雰囲気や人の良さです。入社後、3カ月は現場でめっきについての知識や技術を学び、その後、現在の部署へ。女性だから経歴などいさかいなく、チャレンジさせてもらえ、任せてもらえることにやりがいを感じています。

我が社の 自慢

性別や学歴、 雇用形態など区別なく、

現在、従業員は16名で、そのうち女性が10名。工場勤務ながら、女性が長く働き続けている。また、社員だから、パートだからとか、学歴など条件で区別はしない。パートでも役職に就けるし、女性の工場長もありえる。既成概念にとられない人事が、同社の風通しの良さとも言える。

総務課長
藤本博子さん（27歳）

